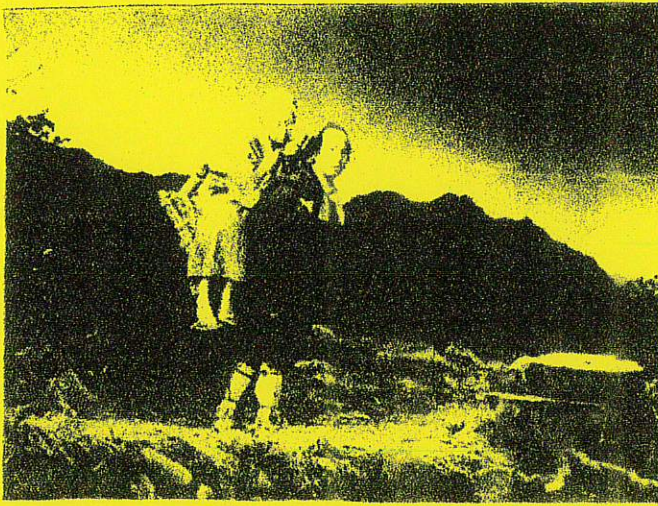


檜山節考

原作………深沢七郎

山と山が連つていて、どこまでも山ばかりである。この信州の山々の間にある村——向う村のはずれにおりんの家はあった。家の前に大きい檜の根の切株があつて、切口が板のように平たいので子供達や通る人達が腰をかけては重宝がつていた。だから村の人はおりんの家のことを「根っこ」と呼んでいた。嫁に来たのは五十年前も前のことだった。この村ではおりんの実家の村を向う村と呼んでいた。



：檜山節考(1958年)・木下恵介監督

檜山祭りが三度来りやよ

栗の種から花が咲く

お父っちゃん出て見る枯木や茂る

行かざるまい、しよこしよつて

おらんの父っちゃん身持の悪さ

三日病んだらまんま炊いた

お姥捨てるか裏山へ

裏じゃ蟹でも這つて来る

なんぼ寒いとつて綿入れを

山へ行くにや着せられぬ

篠田澄明
秋のひとり語り

9月21日(土)
14:00~

上越市本町6
高田小町(無料)

